

◆おてんとさんの市民共同発電所について

参考資料 2-1

2021年10月11日

特定非営利活動法人 サークルおてんとさん
(一般社団法人地域未来エネルギー奈良)

理事長 清水順子

1. 市民共同発電所8機を設置。(9機目を計画中)

それぞれ資金調達方法が異なる

2004年3月	あすなら苑おてんとさん発電所	20kW	→	グリーン電力証書販売 環境価値を証書化
2007年2月	ならのはおてんとさん発電所	10kW		
2011年3月	あすなら保育園おてんとさん発電所	10.4kW		カーボンオフセットで活動を実施した
2014年1月	あすなら苑第2おてんとさん発電所	10kW	全量売電	FIT制度導入
(2014年5月)	市民ファンドによる「恋の窪未来発電所@ならコープ」	49.6kW	全量売電	
2017年3月	うだ夢創の里市民共同発電所	9.4kW		
2018年2月	あすならホーム西の京発電所(奈良市補助事業)	6.42kW	(5.6kWh蓄電池)	
2019年11月	かかしの会発電所(奈良市補助事業)	6.25kW	(5.6kWh蓄電池)	
2021年1月	ア。ウン。パヴァリオン発電所	22.2kW	全量売電	
2023年3月	奈良市内高齢者福祉施設の屋根に設置計画(奈良市補助事業)			

寄付活動とともに完成披露会を開催。

完成後、設置施設から報告された発電量を、おてんとさんのWebサイトに掲載。

施設の職員や利用者向けに啓発講座を実施。

市民の力を合わせて作った86.67kWの太陽光発電所は、クリーンなエネルギーを生み出し続けている。

2. 地域団体・市民と連携した社会活動への取り組み状況

市民共同発電所づくりでは福祉施設(高齢者福祉・障がい者福祉)や地域の配食サービスや農林業の活性化を担う拠点に設置し、固定費の負担を軽減させ活動を支援してきた。

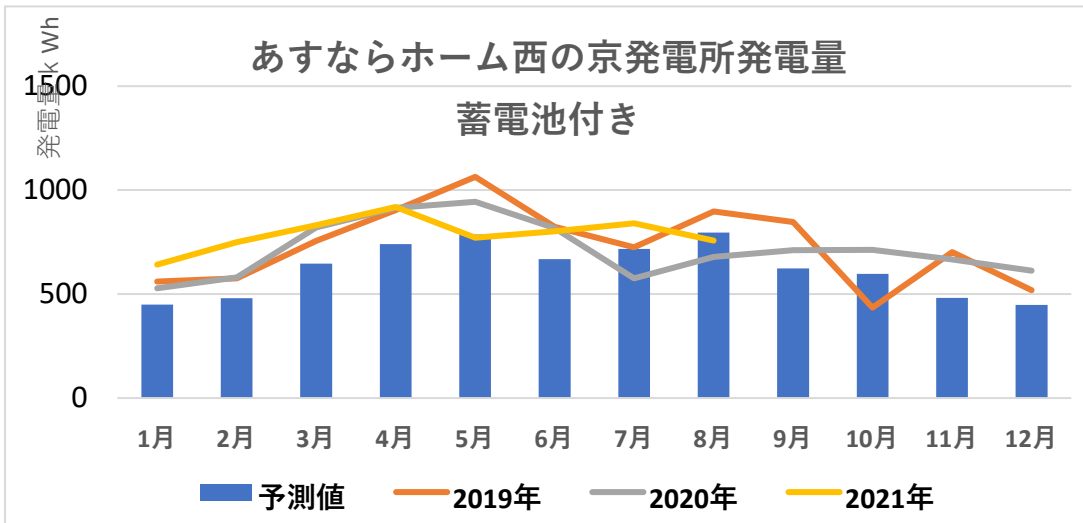
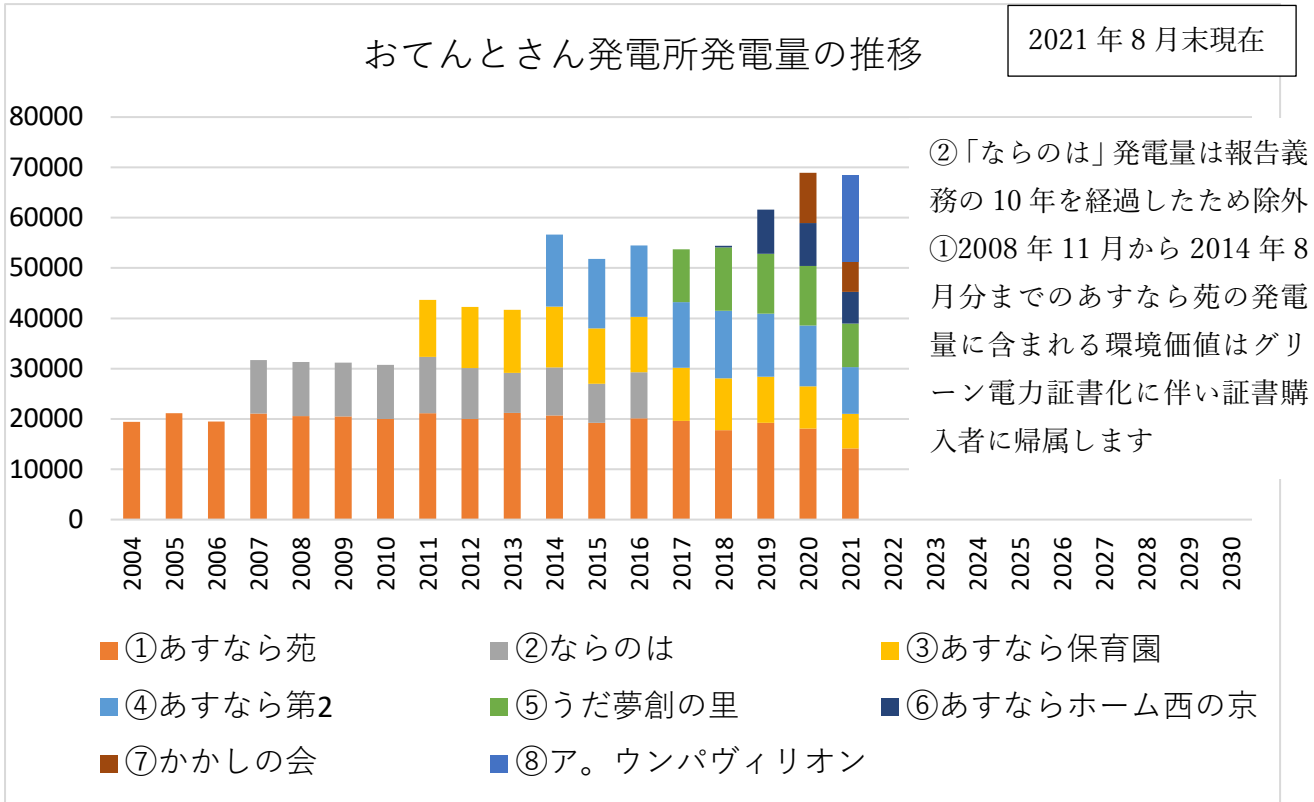
事例：社会福祉法人協同福祉会、社会福祉法人ならのは、NPO法人うだ夢創の里、

NPO法人かかしの会、ア。ウン。パヴァリオン(オランダからの移住者)

関与者：福祉関係者、生協、地域の関係者、自治体関係者、環境NPO、地域おこしの若者など

3. 課題認識

- ・山間地域で送電線網が脆弱で接続できないため、再エネ優先接続のエネルギー政策が必要
- ・熱利用では、太陽熱温水器は温水を大量に使用する高齢者福祉施設では有効と評価されている。一般家庭でも有効だが、買取制度はなく、導入動機は太陽光発電に負ける。
- ・木質バイオマス熱利用では温浴施設のボイラー改修時がチャンスだが、林業とセットでなければコストが大きくなる。また、施設の敷地の広さや燃料に何を使うのかでコストが異なる。熱の買取制度が、一部自治体である。



2020年5月には施設の使用電力のほぼ全量の電力量を蓄電池と太陽光発電で賄いました。
 2021年は5月8月と日照量不足で発電量が落ち込み、コロナ対策での換気を求められたこともあり、使用電力量が増え、4月の自給率70%が最高でした。

